

CLUSTERPRO

MC ProcessSaver 1.2 for Windows

ユーザーズガイド(コンソール編)

© 2014(Mar) NEC Corporation

- ☐ はじめに
- ☐ ProcessSaver コンソールについて
- ☐ プロセス／サービス監視導入について
- ☐ 自動起動設定について
- ☐ メッセージ一覧

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2012.09	新規作成
2.0	2013.09	Windows Server 2012 対応
3.0	2014.03	Windows Server 2012 Datacenter、Windows Server 2012 R2 対応

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows(以後、ProcessSaver と記載します)の設定や機能について説明します。

(1) 商標および登録商標

- ✓ Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ✓ Windows Server 2003 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating System です。
- ✓ Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
- ✓ Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1.	はじめに.....	1
1.1.	用語の定義.....	1
1.2.	表記規則.....	2
1.3.	注意事項.....	2
2.	ProcessSaver コンソールについて.....	3
2.1.	ProcessSaver コンソール起動方法.....	3
2.2.	Watch 画面.....	4
2.3.	Create Pfile 画面.....	6
2.4.	Create PcheckRunList 画面.....	8
3.	プロセス／サービス監視導入について.....	9
3.1.	Pfile の作成方法.....	9
3.1.1.	Create Pfile 画面に移動.....	9
3.1.2.	共通情報部(Param)の設定.....	10
3.1.3.	個別情報部(Pent)の設定.....	12
3.1.4.	Pfile の保存.....	17
3.2.	プロセス／サービスの監視開始方法.....	19
3.2.1.	Watch 画面に移動.....	19
3.2.2.	Pfile の選択.....	19
3.2.3.	Pcheck の起動方法.....	20
3.2.4.	Pcheck の起動確認.....	21
3.3.	運用管理方法.....	22
3.3.1.	プロセスの個別監視停止・再開.....	26
4.	自動起動設定について.....	28
4.1.	Create PcheckRunList 画面に移動.....	28
4.2.	PcheckRunList の設定.....	29
4.3.	設定の保存.....	31
5.	メッセージ一覧.....	32

1. はじめに

本書は、インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を説明します。

1.1. 用語の定義

本書での用語について、下記のように定義します。

用語	説明
ProcessSaver コンソール	ProcessSaver の運用管理のための GUI(グラフィカルユーザーインターフェース)画面のことを、ProcessSaver コンソールと表記します。
HA ProcessSaver サービス	Windows システム上に登録する ProcessSaver のサービスのことを、HA ProcessSaver サービスと表記します。
Pfile	プロセス／サービスの監視定義情報を記述する設定ファイルのことを、Pfile と表記します。
Pcheck	Pfile で指定された定義情報に基づき、プロセス／サービスの消滅監視および再開を行うプロセスのことを、Pcheck と表記します。
Padmin	Pcheck の状態表示および操作を行うコマンドのことを、Padmin と表記します。
再起動スクリプト	監視対象プロセス／サービスの消滅を検知した場合に、監視対象プロセス／サービスを自動的に再起動するためのコマンド処理を記述したファイルのことを、再起動スクリプトと表記します。
RetryOverAction	監視対象プロセスの消滅を検知した際に再起動スクリプトにより、一定回数リトライしても再開できない場合、対象プロセスに対して実行される様々な後処理のことを、RetryOverAction と表記します。
RetryCount	監視対象プロセス／サービスの消滅を検知し、再起動スクリプトを実行した回数のことを、RetryCount と表記します。
PcheckRunList	OS 起動時に自動的に監視を開始するための Pcheck の起動リストです。 監視を行う Pfile の一覧が記述されています。
インストールフォルダ	ProcessSaver をインストールしたフォルダです。 本資料では、<C:¥Program Files> にインストールしたこととします。 OSにより、インストールフォルダのデフォルトは変更されます。 32bit OS : 【 C:¥Program Files 】 64bit OS : 【 C:¥Program Files(x86) 】

1.2. 表記規則

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
『』	画面名の前後	『Create Pfile』は、Pfile を作成する画面です。
「」	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows インストールガイド」を参照してください。 「5. メッセージ一覧」を参照してください。
【】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥【Pfile 名】
[]	項目名の前後 タブ名の前後	[ProcessSaver Console] を選択してください。 [Create Pfile] タブを選択してください。
太字	機能名	MsgCheckInterval を設定してください。
斜体、太字	ボタン名 チェックボックス名	OK を押してください。 LocalUser にチェックしてください。

1.3. 注意事項

- (1) ProcessSaver コンソールの実行には管理者権限が必要です。
管理者権限のあるユーザーで実行してください。
- (2) Windows Server 2008／2012 では、ProcessSaver コンソールを実行した場合に、OS の機能である UAC(ユーザーアクセス制御)により、以下のようなポップアップが表示される場合があります。

(Windows Server 2008 の場合)

実行する場合は **許可(A)**、実行を取り消す場合は **キャンセル** を押してください。

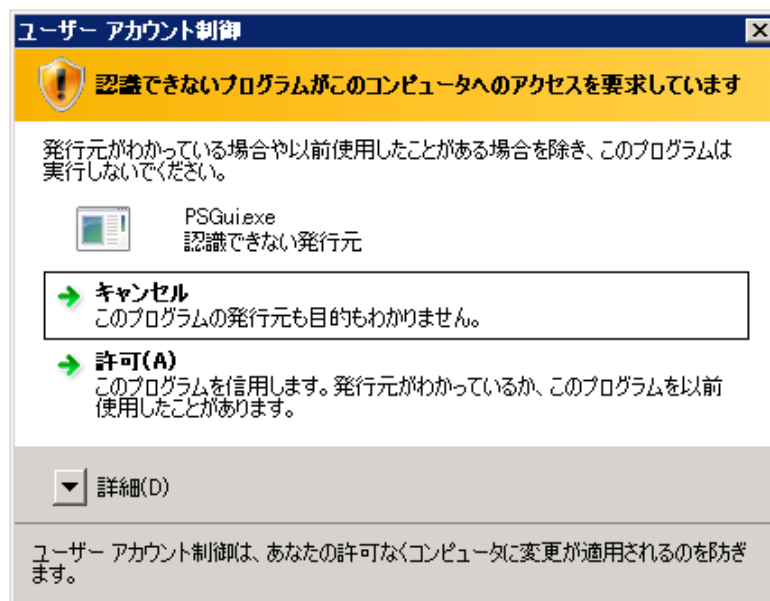


図1 『ユーザーアカウント制御』(Windows Server 2008 の場合)

(Windows Server 2012 の場合)

実行する場合は **はい(Y)**、実行を取り消す場合は **いいえ(N)** を押してください。

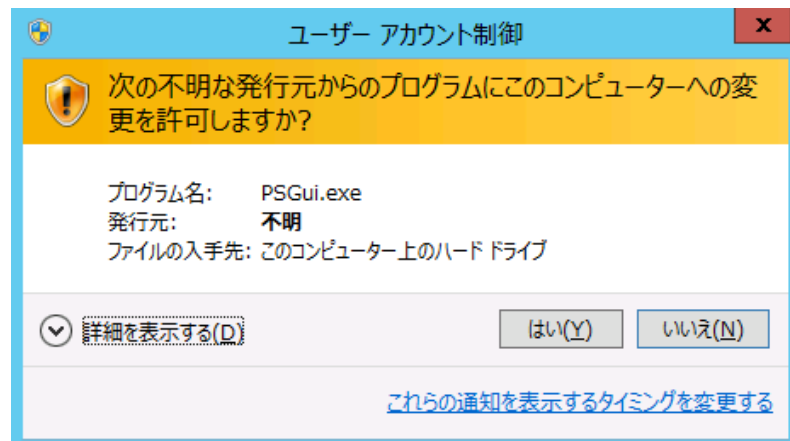


図 2 『ユーザーアカウント制御』(Windows Server 2012 の場合)

2. ProcessSaver コンソールについて

ProcessSaver コンソール画面について説明します。

2.1.ProcessSaver コンソール起動方法

スタートメニューから [すべてのプログラム(P)] → [HA] → [ProcessSaver] → [ProcessSaver Console] を選択してください。

下記画面が表示されます。

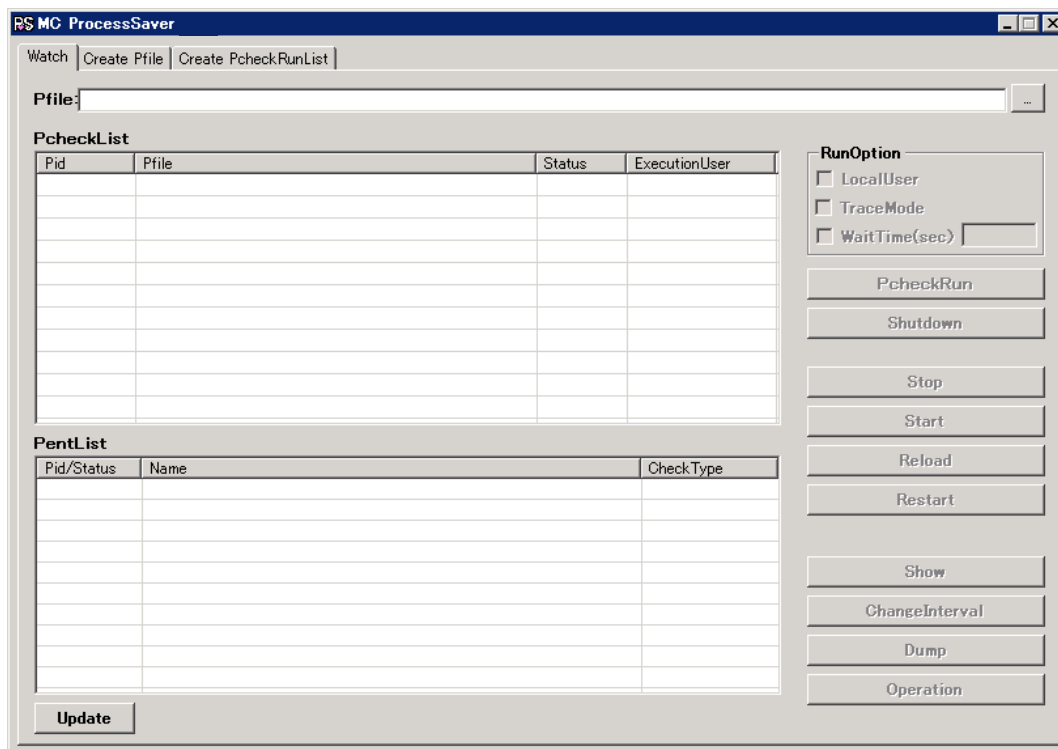


図 3 『Watch』

2.2. Watch 画面

『Watch』は、Pfile を使用して、監視作業を実行する画面です。

The screenshot shows the 'Watch' screen of the RS MC Process Manager. It includes a 'Pfile' selection field, a 'PcheckList' table, a 'PentList' table, and a 'RunOption' panel with various control buttons. Callouts provide detailed explanations for each major component.

[Pfile 名]
監視を実行する Pfile を指定します。

[RunOption]
• LocalUser
• TraceMode
• WaitTime(sec)
Pcheck 起動時の各種オプションを設定することができます。

[Pfile 選択ボタン]
実行する Pfile を参照、選択します。

[PcheckList]
動作中の Pcheck の一覧を表示します。

[PentList]
Pfile に定義したプロセス単位の管理情報を一覧表示します。

Update
ボタンの動作詳細は、“各ボタンの説明”を参照してください。

RunOption
Stop
Start
Reload
Restart
Show
ChangeInterval
Dump
Operation
ボタンの動作詳細は、“各ボタンの説明”を参照してください。

Pid	Pfile	Status	ExecutionUser

Pid/Status	Name	CheckType

各ボタンの説明

- **PcheckRun** ボタン
指定された Pfile の監視を実行します。
- **Shutdown** ボタン
監視を終了します。(Pcheck.exe は、終了します。)
- **Stop** ボタン
監視を一時停止します。(Pcheck.exe は、起動しています。)
- **Start** ボタン
監視を再開します。
- **Reload** ボタン
Pfile 名に表示している Pfile の動的変更を反映させます。
Pcheck を終了させることなく、変更した Pfile の再読み込みを行います。
- **Restart** ボタン
プロセス情報を再読み込み後に、プロセス監視の再開を指定します。
- **Show** ボタン
監視状態の詳細情報を表示します。
- **ChangelInterval** ボタン
動作/パラメータを動的に変更します。
- **Dump** ボタン
Dump ファイルを作成します。
- **Update** ボタン
PcheckList と PentList を最新の情報に更新します。
ProcessSaver コンソールは 5 秒間隔で、最新の情報に更新します。
Pcheck の起動直後や各ボタンを使い Pcheck の状態を変更したあと、
すぐに ProcessSaver コンソールの状態を更新したい場合に使用します。
- **Operation** ボタン
プロセス個別監視停止・開始の操作画面を表示します。
PentId/GroupTag を指定してプロセス監視の停止・開始を行う場合に使用します。

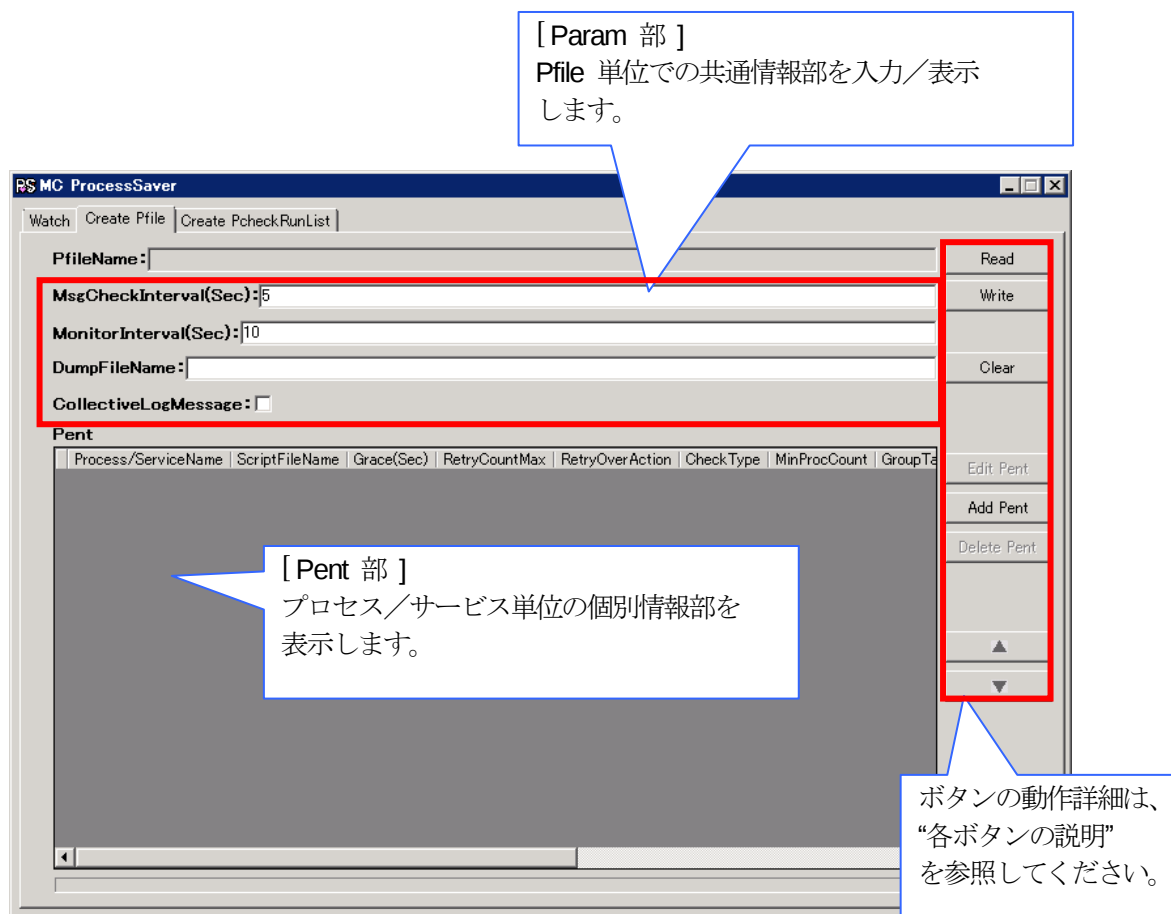
PcheckList での動作について

- 行を選択した場合
選択した Pcheck が監視している監視対象プロセス／サービスの状態を
下部の PentList に表示します。
- チェックボックスをチェックした場合
各ボタンが選択可能になり Pcheck に動作を指定することができます。
また、複数の Pcheck.exe を同時に選択し、同時に同じ動作を
指定することができます。

各ボタンは、対象とする操作が可能になった際に有効になります。

2.3. Create Pfile 画面

『Create Pfile』は、Pfile を作成する画面です。



各ボタンの説明

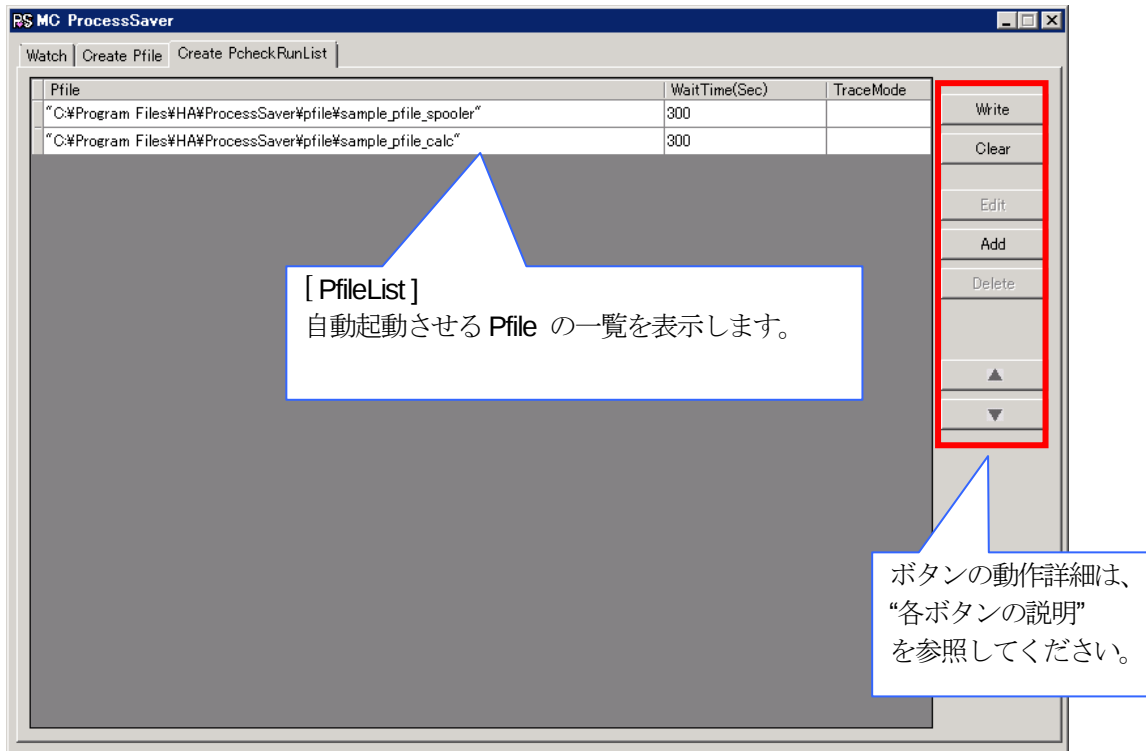
- **Read** ボタン
Pfile を読み込み、画面に表示します。
- **Write** ボタン
画面の内容を Pfile に保存します。
Pfile がすでに存在する場合は、上書き保存の確認画面が表示されます。
「はい (Y)」 : 上書き保存。
「いいえ (N)」 : 『名前を付けて保存』画面表示。
「キャンセル」 : 『Create Pfile』に戻る。
- **Clear** ボタン
現状表示している項目をクリアし、Param 部にデフォルト値を表示します。
- **Edit Pent** ボタン
Pent 部で選択した行の個別情報部を、『Pent』で修正することができます。
- **Add Pent** ボタン
『Pent』が表示され、Pent 部に新規で追加することができます。
- **Delete Pent** ボタン
Pent 部で選択した行の個別情報部を削除します。
- ▲ ボタン
Pent 部で選択した行を上段に移動します。
- ▼ ボタン
Pent 部で選択した行を下段に移動します。

各ボタンは、対象とする操作が可能になった際に有効になります。

2.4. Create PcheckRunList 画面

『Create PcheckRunList』は、ProcessSaver サービス起動時に監視を開始する Pfile を設定する画面です。

ProcessSaver コンソール起動時に取得した PcheckRunList の内容を表示します。



各ボタンの説明

- **Write** ボタン
画面の内容を PcheckRunList に保存します。
- **Clear** ボタン
画面上の設定情報をすべてクリアします。
- **Edit** ボタン
PfileList で選択した Pfile を、『PcheckRun』で修正することができます。
- **Add** ボタン
PfileList に Pfile を新規で追加します。
- **Delete** ボタン
PfileList で選択した Pfile を削除します。
- ▲ ボタン
PfileList で選択した Pfile を上段に移動します。
- ▼ ボタン
PfileList で選択した Pfile を下段に移動します。

各ボタンは、対象とする操作が可能になった際に有効になります。

3. プロセス／サービス監視導入について

3.1.Pfile の作成方法

3.1.1. Create Pfile 画面に移動

[Create Pfile] タブを選択してください。

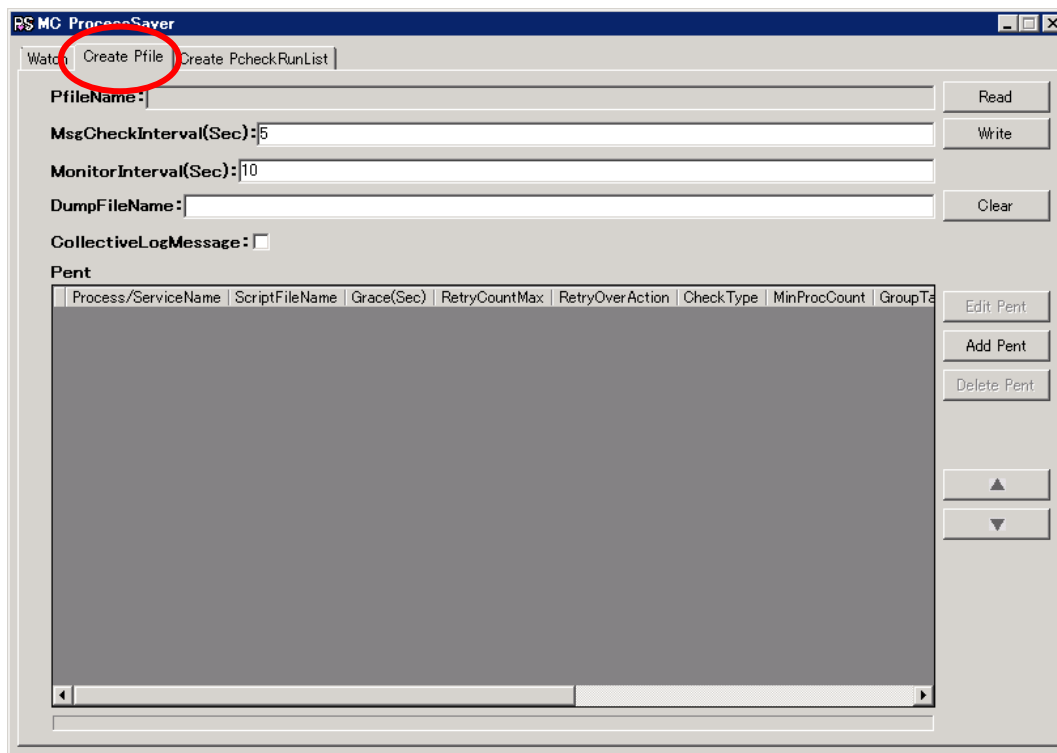


図 4 『Create Pfile』

3.1.2. 共通情報部(Param)の設定

- (1) **MsgCheckInterval** を設定してください。

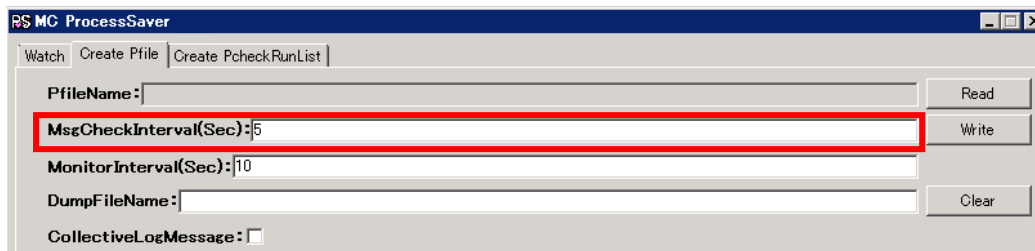


図5 『Create Pfile』Param 部

内部イベントをスケジュールするタイマ値を設定します。

MonitorInterval より小さい値を設定してください。

ProcessSaver コンソールや Padmin.exe から指定するプロセス／サービス監視の停止や再開といった動作制御を実行する間隔に使用します。

ProcessSaver コンソールや Padmin.exe からのオペレーションは、最大で **MsgCheckInterval** だけ遅延する可能性があります。

注意 指定値は、1 秒 ～ 3600 秒(1 時間)の範囲で設定してください。
デフォルト値は、5 秒です。
デフォルト値を使用することを推奨します。

- (2) **MonitorInterval** を設定してください。

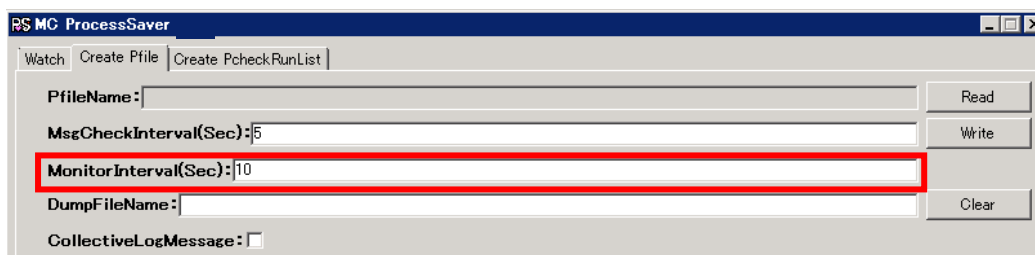


図6 『Create Pfile』Param 部

プロセス／サービス監視を行うタイマ値を設定します。

MsgCheckInterval の正の整数倍の値を設定してください。

注意 指定値は、1 秒 ～ 86400 秒(24 時間)の範囲で設定してください。
デフォルト値は、10 秒です。
デフォルト値を使用することを推奨します。

- (3) **DumpFileName** を設定してください。

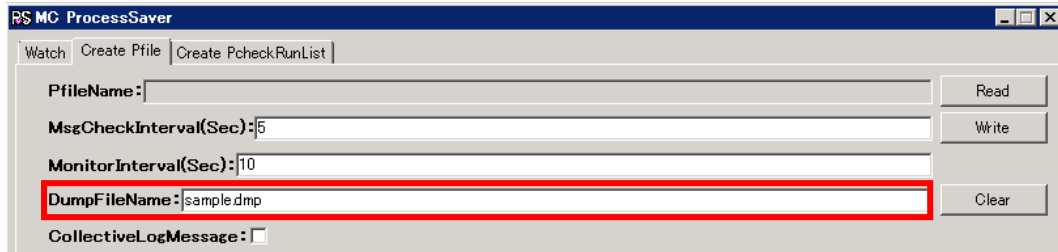


図7 『Create Pfile』Param 部

Pcheck の内部情報を出力するファイル名を設定します。

※ファイル名のみを指定した場合は、下記フォルダが自動で指定されます。

“【インストールフォルダ】¥ProcessSaver¥log¥【Dump ファイル名】”

※名前にスペースがあるフォルダに存在するファイルを指定する場合は、
始点と終点に "(ダブルクォーテーション)を付与してください。

注意 システムで一意の名前を設定してください。
一意でない(重複した)場合、各 Pcheck から出力ファイルが上書き
されます。

- (4) **CollectiveLogMessage** を設定してください。

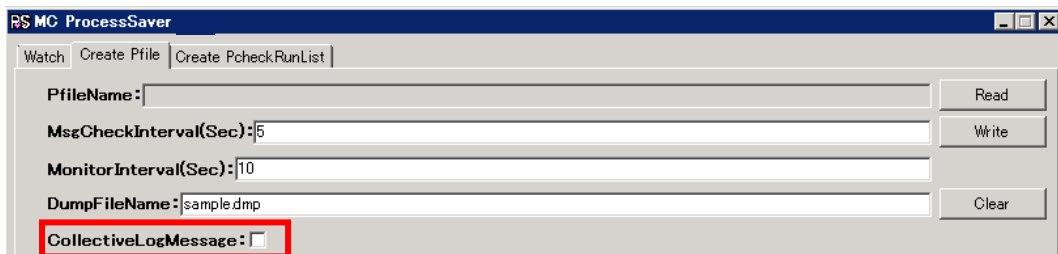


図8 『Create Pfile』Param 部

チェックボックスをオンにした場合、Pcheck 起動時に監視対象プロセスの稼動数がサマリメッセージとして
イベントログに出力することができます。

3.1.3. 個別情報部(Pent)の設定

Add Pent を押して『Pent』を表示してください。

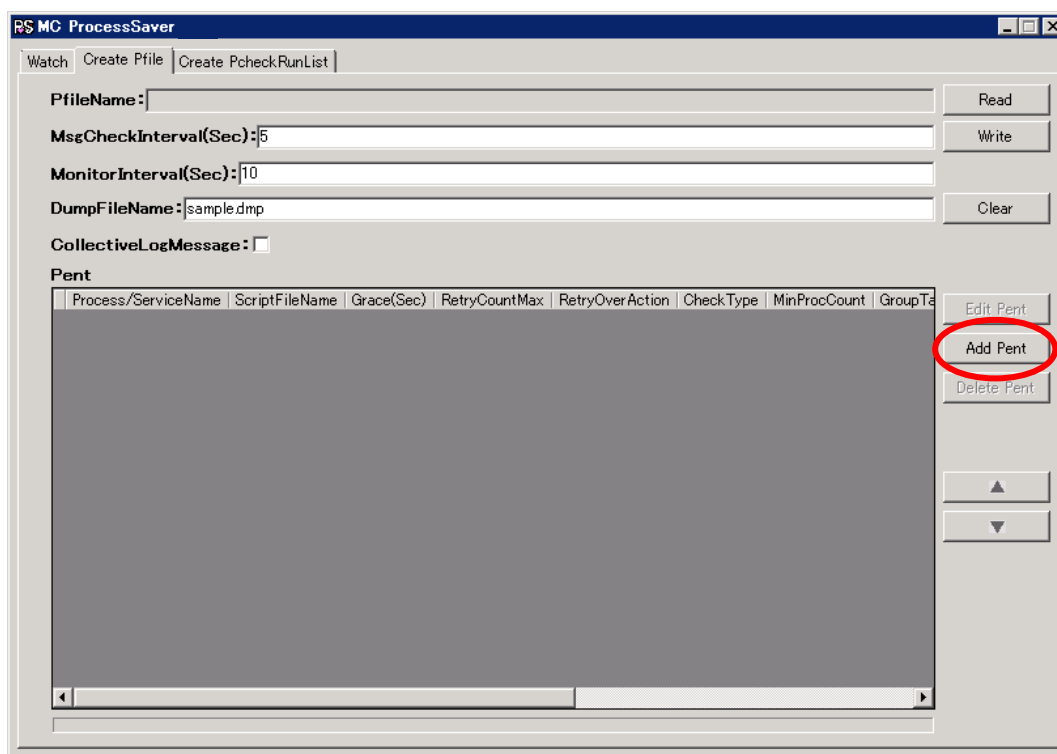


図 9 『Create Pfile』

Add Pent を押すと下記画面が表示されます。

GetActive ボタン

Script ボタン

図 10 『Pent』

各ボタンの説明

- **OK** ボタン
入力した内容で Pent 部に追加します。
- **Cancel** ボタン
『Pent』を終了します。
- **GetActive** ボタン
『ProcessActiveList』または『ServiceActiveList』が表示され、
監視対象に登録するプロセスおよびサービスを選択することができます。
- **Script** ボタン
ファイル参照画面が表示され、再起動スクリプトを指定することができます。

(1) CheckType の設定

CheckType のプルダウンリストから CheckType(Process/Service)を指定してください。

注意 CheckType が実際に監視する対象と異なる場合は、正しく監視を行うことができません。

(2) Process/ServiceName の設定

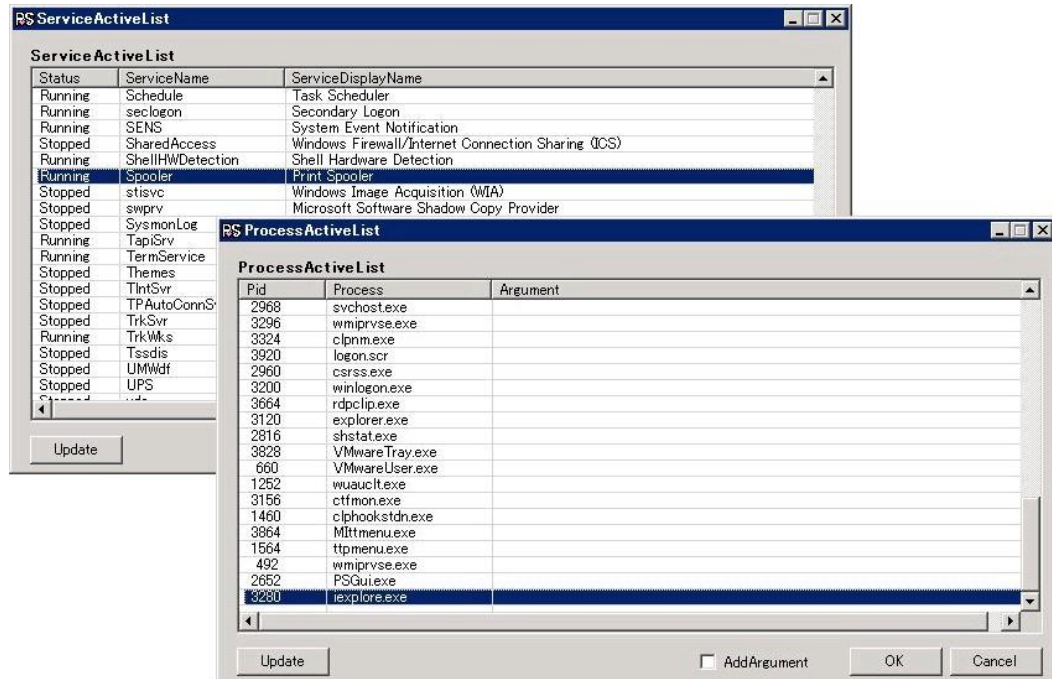
監視対象となるプロセス名およびサービス名を設定してください。

プロセスを指定した場合は、引数を設定することができます。

直接プロセス名およびサービス名を入力するか、**GetActive** ボタンを押してください。

表示された『ProcessActiveList』または『ServiceActiveList』から監視対象となるプロセス名およびサービス名を選択してください。

プロセスの引数を指定する場合は、『ProcessActiveList』の **AddArgument** にチェックをつけることによりプロセス名とともに引数が取得できます。



各ボタンの説明

- ・ **OK** ボタン
選択したプロセスおよびサービスを『Pent』に入力します。
- ・ **Cancel** ボタン
『ProcessActiveList』または『ServiceActiveList』を終了します。
- ・ **Update** ボタン
現在起動しているプロセスおよびサービスを再取得します。
『ProcessActiveList』を表示後に監視対象プロセスを起動した場合は、**Update** ボタンを押してください。
- ・ **AddArgument** チェックボックス
プロセスのコマンドラインを表示します。

監視対象に登録するプロセスおよびサービスを選択し、**OK** ボタンを押してください。

-
- 注意
- ・『ServiceActiveList』に表示されるサービス一覧については、Windows サービスに登録されているサービスを表示します。
 - ・『ProcessActiveList』に表示されるプロセス一覧については、起動しているプロセスを表示します。
-

※『ProcessActiveList』または『ServiceActiveList』から監視対象を選択せずに直接入力する場合で、引数を指定する場合、プロセス名およびサービス名と引数の間に &(アンパサンドとパイプ)を付与してください。

(3) **ScriptName** の設定

再起動スクリプトを選択してください。

直接再起動スクリプトを入力するか、**Script** を押して再起動スクリプトを選択してください。

-
- 注意
- ・再起動スクリプトは、実行形式ファイルを指定してください。
引数を指定することも可能です。
 - ・ファイル名は、絶対パスにて 256 バイト以下で設定してください。
引数を指定する場合は、全体で 1024 バイト以下で設定してください。
-

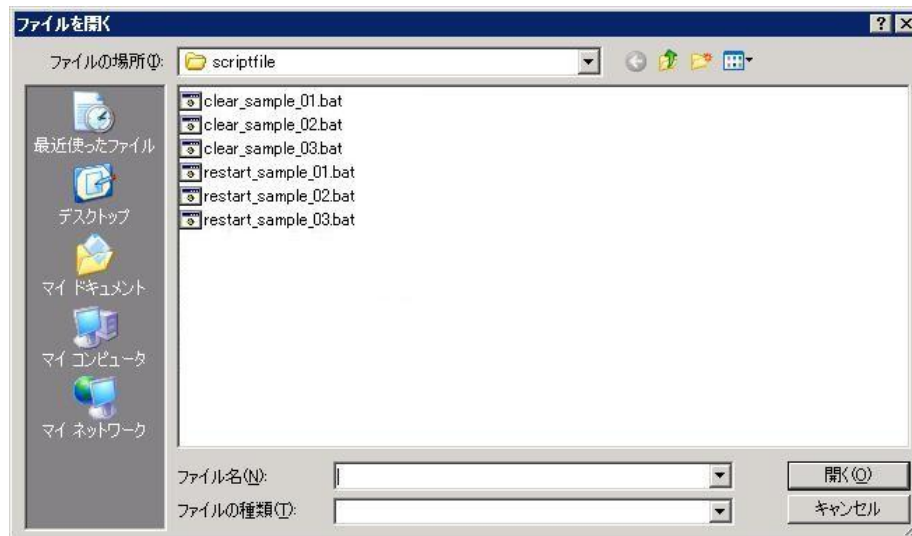


図 11 スクリプトファイル参照画面

※ファイル名のみを指定した場合は、下記フォルダが自動で指定されます。

“【インストールフォルダ】¥ProcessSaver¥scriptfile¥【再起動スクリプト名】”

※スクリプト格納フォルダ以外に保存されている再起動スクリプトを選択したい場合は、絶対パス指定にて再起動スクリプト名を指定してください。

※名前にスペースがあるフォルダに存在するファイルを指定する場合は、始点と終点に "(ダブルクォーテーション)を付与してください。

引数を指定する場合、再起動スクリプトファイル名と引数の間に &|(アンパサンドとパイプ)を付与してください。

《再起動スクリプトについての注意事項》

再起動スクリプトに指定する実行形式ファイルは、監視対象プロセス／サービスが起動後に終了する必要があります。

再起動スクリプトが終了しなければ、監視を再開しません。

RestartWaitTime を設定していた場合は、指定時間経過後、再起動スクリプトを強制終了します。

(**RestartWaitTime** の詳細は、「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows ユーザーズガイド(機能編)」の「4.7. 再起動スクリプト実行後の監視待ち合わせ機能(**RestartWaitTime**)」を参照してください。)

(4) **Grace** の設定

Grace 値とは、**RetryCountMax** 値に達するまでの制限時間です。

Grace 値で設定した時間内に、**RetryCountMax** 値に達した場合、**RetryOverAction** の設定にしたがって処理を行います。

Grace 値で設定した時間内に **RetryCountMax** 値に達しない場合、**Grace** 値に到達後に **RetryCount** をクリアします。

なお、再起動が不要な場合は、“0(ゼロ)”を設定してください。

注意 指定値は、1 秒～ 31536000 秒(1年間)の範囲で設定してください。
デフォルト値は、86400 秒(1 日)です。

(5) **RetryCountMax** の設定

監視対象プロセス／サービスの **RetryCountMax** 値を設定してください。

RetryCountMax 値とは、**Grace** 値内に実行する再起動スクリプトの最大実行回数です。

なお、再実行が不要な場合は、“0(ゼロ)”を設定してください。

注意 指定値は、1 回 ～ 1024 回の範囲で設定してください。
デフォルト値は、3 回です。

(6) **RetryOverAction** の設定

RetryCountMax 値に達した場合の動作(**RetryOverAction**)を指定してください。

RetryOverAction には、以下のパラメータを指定してください。

Continue **RetryCountMax** 値に達したプロセスを監視対象から外し、ほかのプロセスの監視は継続して行います。

Exit Pcheck.exe を終了します。
戻り値 = “1”

Shutdown Pcheck.exe を終了します。
戻り値 = “0”

(7) **PnameFullMatch** の設定

監視対象プロセスの引数にて識別する方式を指定してください。

PnameFullMatch には、以下のパラメータを指定してください。

disable **Process/ServiceName** で指定した引数の文字列と前方一致で一致するプロセスを監視対象プロセスと特定します。

enable **Process/ServiceName** で指定した引数の文字列と完全一致するプロセスを監視対象プロセスと特定します。

3.1.4. Pfile の保存

『Create Pfile』で設定した内容を確認し、**Write** を押して『名前を付けて保存』を表示してください。

※すでにファイルが存在している場合は、上書き保存の確認メッセージが表示されます。

はい (Y) を選択した場合

上書き保存。

いいえ (N) を選択した場合

『名前を付けて保存』が表示。

キャンセル を選択した場合

『Create Pfile』に戻る。

The screenshot shows the 'RS MC ProcessSaver' application window with the 'Create Pfile' tab selected. The window contains several input fields and buttons. The 'Write' button is circled in red. Below the input fields is a table with the following data:

Process/ServiceName	ScriptFileName	Grace(Sec)	RetryCountMax
calc.exe	"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\sample_restart_calc.bat"	86400	3

Buttons on the right side of the window include 'Read', 'Write' (circled), 'Clear', 'Edit Pent', 'Add Pent', 'Delete Pent', and two arrow buttons.

図 12『Create Pfile』

ファイル名を入力し、**保存 (S)** を押して Pfile を保存してください。

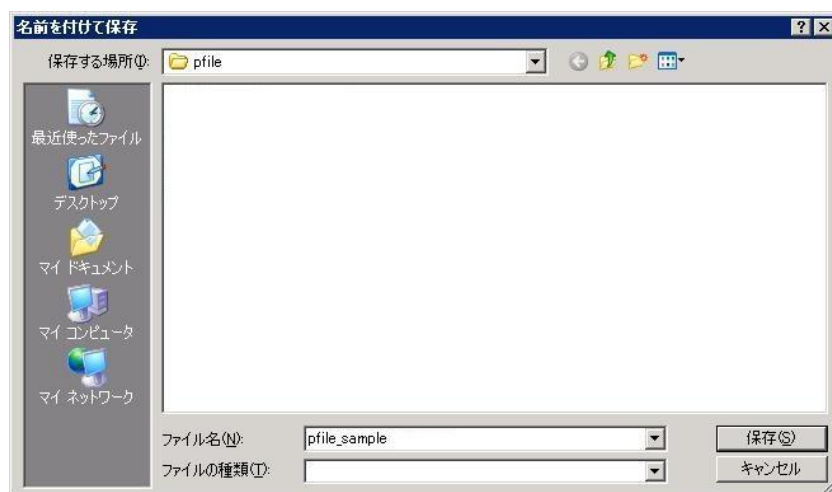


図 13『名前を付けて保存』

Write を押した時に各項目のチェックを行います。
設定した内容に問題がある場合は、メッセージが表示されます。
メッセージの内容については、「5. メッセージ一覧」を参照してください。

3.2. プロセス／サービスの監視開始方法

3.2.1. Watch 画面に移動

[Watch] タブを選択してください。

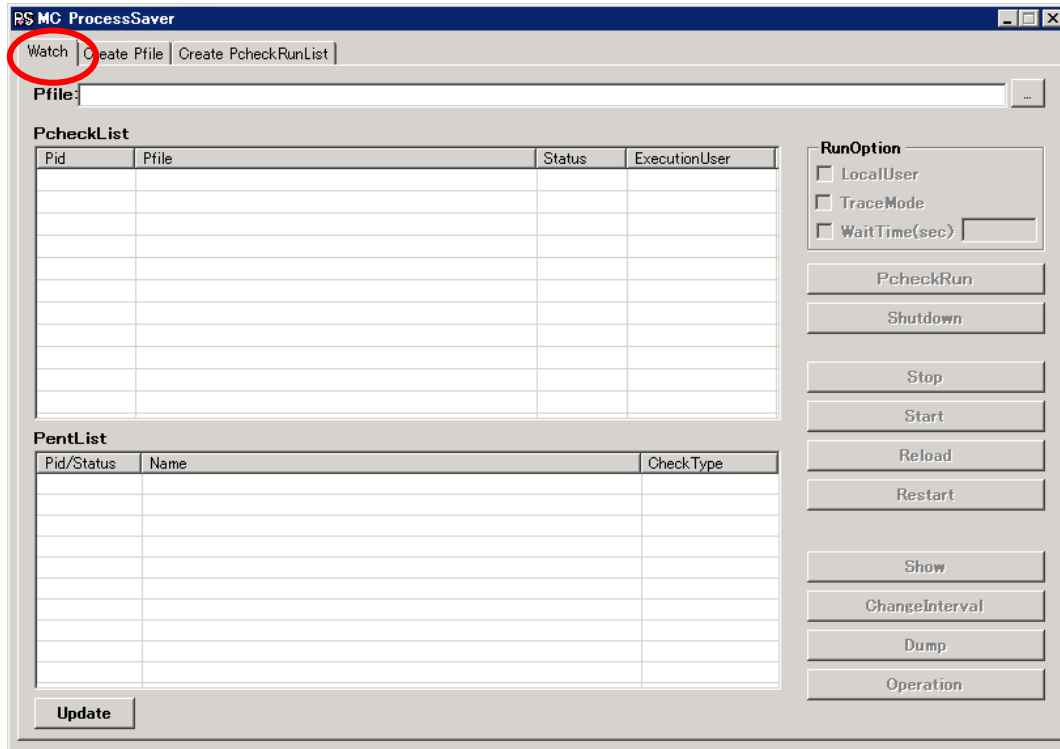


図 14「Watch」

3.2.2. Pfile の選択

監視を開始する Pfile を選択してください。

直接 Pfile を入力するか、**Pfile 選択** を押して監視を開始する Pfile を選択してください。

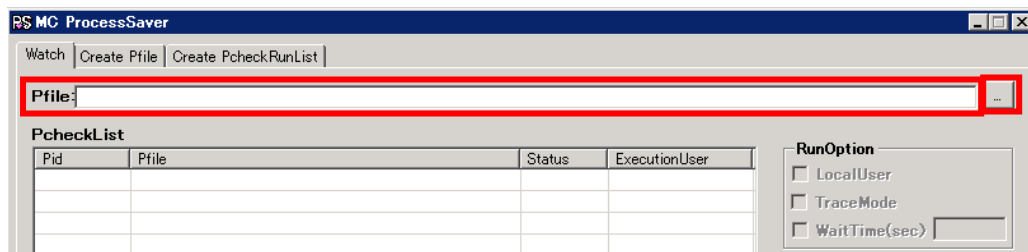


図 15「Watch」

- ※ Pfile 名のみを指定する場合、
Pfile 格納フォルダ(【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥pfile)を参照します。
Pfile 格納フォルダ以外に保存されている Pfile を選択したい場合は、絶対パス指定にて
Pfile 名を指定してください。

3.2.3. Pcheck の起動方法

Pcheck を起動します。

選択した Pfile の監視を開始するために **PcheckRun** を押してください。

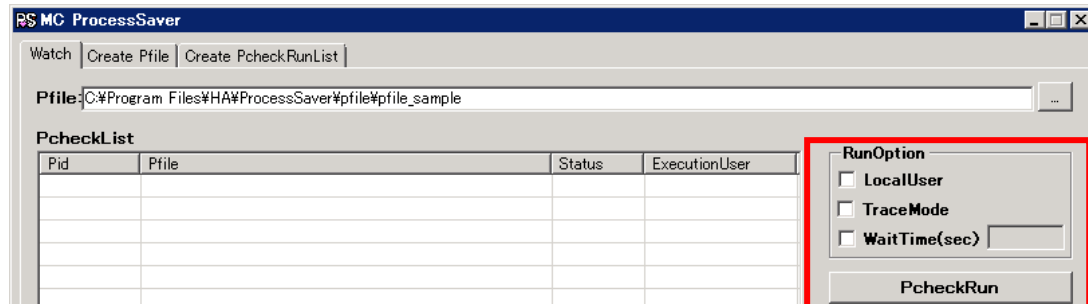


図 16『Watch』PcheckRun 実行前画面

オプションを指定して起動する場合は、それぞれのオプションにチェックを付けてください。

- LocalUser チェックボックス

ローカルユーザーで起動する場合に使用します。
設定しない場合、System ユーザーで起動します。

- TraceMode チェックボックス

トレースモードでの監視を開始します。
ファイルに実行履歴を出力します。
トレースログファイルは、下記ファイルに保存されます。

【インストールフォルダ】\HA\ProcessSaver\log\【Pfile 名.log】

- WaitTime(sec) チェックボックス

プロセス／サービスの監視を始める前に一定の猶予時間を与えます。
指定値には、プロセス監視を開始するまでの待ち合わせ時間を秒単位で設定してください。

注意 指定値は、1 秒 ～ 86400 秒(24 時間)の範囲で設定してください。

3.2.4. Pcheck の起動確認

Pcheck の起動を確認します。

PcheckList の内容を確認し、正常に監視が開始されたか確認してください。

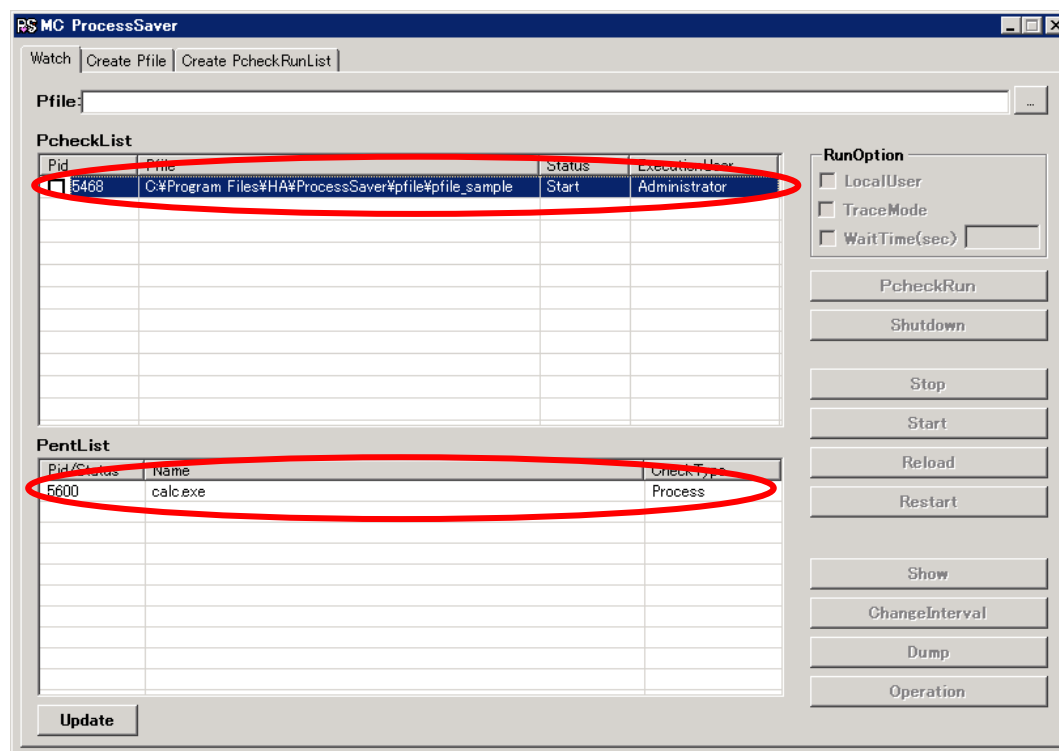


図 17『Watch』PcheckRun 実行後画面

— PcheckList

PcheckList には、現在起動中の Pfile の一覧を表示します。

表示内容は、下記のとおりです。

Pid	: 各 Pcheck のプロセス ID を表示します。
Pfile	: Pfile 名を絶対パスにて表示します。
Status	: Pcheck の監視状態を表示します。
ExecutionUser	: Pcheck を起動したユーザーを表示します。

— PentList

PcheckList にて選択した(網掛けされた)Pcheck の Pent 情報を表示します。

Pid/Status	: 監視対象プロセスのプログラム ID または監視対象サービスの状態を表示します。
Name	: 監視対象プロセス／サービス名を表示します。
CheckType	: 監視対象の種類を表示します。(Process または Service)

3.3. 運用管理方法

- (1) 監視を一時停止する場合

対象の Pcheck を選択し、**Stop** を押してください。

注意 複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck を実行します。

- (2) 監視を再開する場合

対象の Pcheck を選択し、**Start** を押してください。

注意 複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck を実行します。

- (3) Pcheck を終了させずに監視設定(Pfile の内容)の変更を反映させたい場合

対象の Pcheck を選択し、**Reload** を押してください。

注意 複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck を実行します。

- (4) 監視内部情報をリセットし監視を継続する場合

対象の Pcheck を選択し、**Restart** を押してください。

注意 複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck を実行します。

- (5) 監視を終了する場合

対象の Pcheck を選択し、**Shutdown** を押してください。

注意 複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck を実行します。

- (6) Pcheck を終了せずに、イベント間隔を変更する場合
対象の Pcheck を選択し、**ChangeInterval** を押してください。
『ChangeInterval』が表示されます。



図 18『ChangeInterval』

各ボタンの説明

- **ChangeItem**
 - MsgCheckInterval**
内部イベントをスケジュールするタイマ値を変更できます。
 - MonitorInterval**
プロセス／サービス監視を行うタイマ値を変更できます。
- **OK** ボタン
入力した内容を Pcheck に反映させます。
- **Cancel** ボタン
『ChangeInterval』を終了します。

変更したいパラメータを選択し、変更値を **Interval** に入力してください。

注意 Pcheck を複数選択して同時に実行することはできません。

- (7) 指定した Pcheck の内部情報をファイルに出力したい場合
対象の Pcheck を選択し、**Dump** を押してください。

注意 Pcheck を複数選択して同時に実行することはできません。

- 注意** **Show** を押すと、指定した Pcheck の監視状態の詳細が表示されます。
複数の Pcheck を選択した場合は、一度確認画面を表示します。
はい を押すと、選択した Pcheck の個数分の詳細画面を表示します。



- ・ **Update** ボタン
Update ボタンを押すことで画面の更新ができます。
- ・ **Exit** ボタン
『Pcheck Show』を終了します。
- ・ **AutoUpDate** チェックボックス
チェックをつけることにより画面を自動更新します。
画面更新間隔は、Pfile の **MsgCheckInterval** 値です。

監視対象プロセス／サービスの消滅を検知した場合、Pent リストの該当行が黄色で網掛けされます。

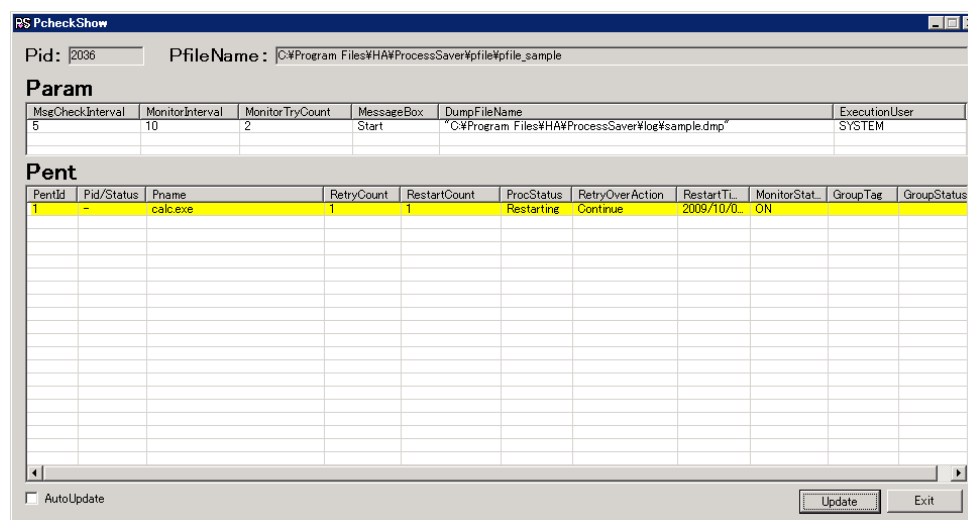


図 20 『Pcheck Show』プロセス消滅検知時画面

監視対象プロセス／サービスの RetryOver を検知した場合、Pent リストの該当行が赤色で網掛けされます。

なお、RetryOver した監視対象プロセス／サービスについては、プロセス／サービスが存在していないため、Pid は “-” で表示されます。

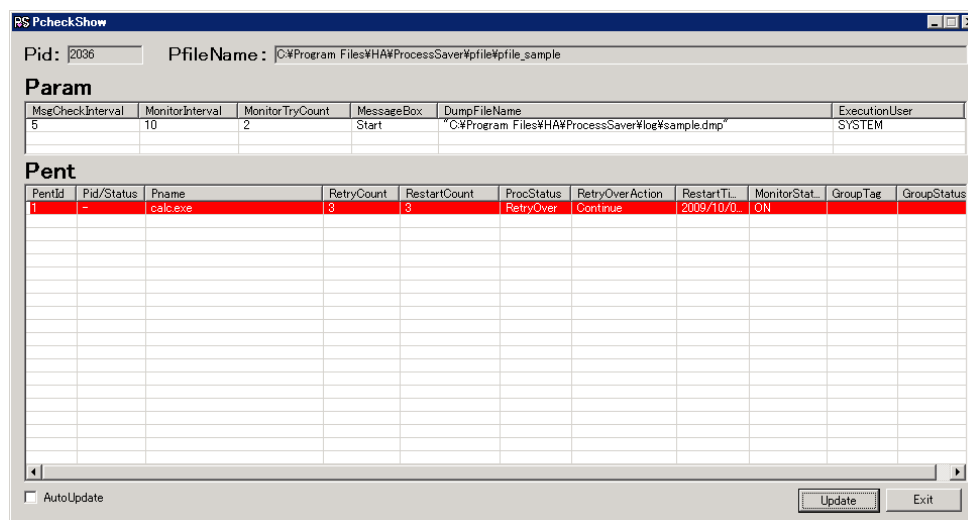


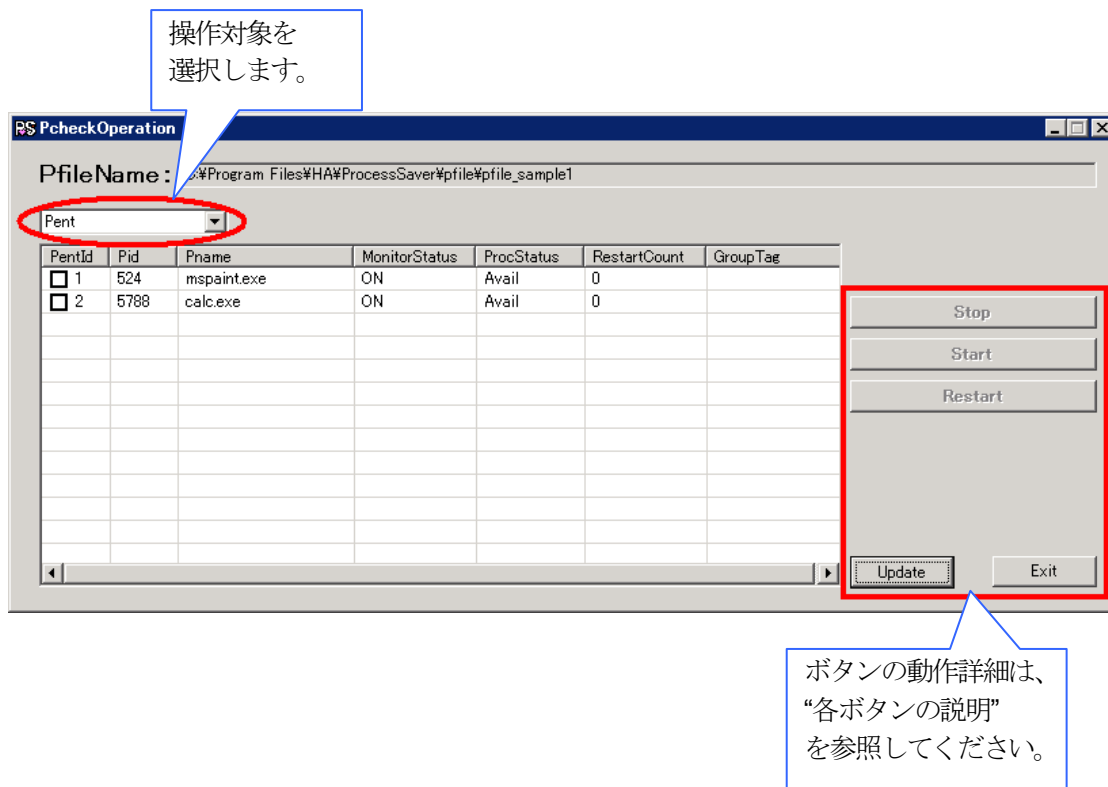
図 21『Pcheck Show』RetryOver 時画面

3.3.1. プロセスの個別監視停止・再開

『PcheckOperation』で Pcheck で監視しているプロセス／サービスのうち一部の監視を停止したり、Pfile に記載している一部のプロセス／サービスの監視を開始したりすることができます。

対象の Pcheck を選択し、**Operation** を押してください。

Operation を押すと、指定した Pcheck の個別監視状態の詳細が表示されます。



各ボタンの説明

- **Stop** ボタン
対象となるプロセス／サービスを選択し、**Stop** ボタンを押すことで指定したプロセス／サービスの監視を一時停止します。
- **Start** ボタン
対象となるプロセス／サービスを選択し、**Start** ボタンを押すことで指定したプロセス／サービスの監視を開始します。
- **Restart** ボタン
対象となるプロセス／サービスを選択し、**Restart** ボタンを押すことで指定したプロセス／サービスの監視内部情報をリセットし、監視を継続します。
- **Update** ボタン
Update ボタンを押すことで画面の更新ができます。
- **Exit** ボタン
『PcheckOperation』を終了します。

操作対象を選択してください。

Pent 単位で操作する場合

監視対象プロセス／サービスの PentId を指定して監視の停止・開始を行います。

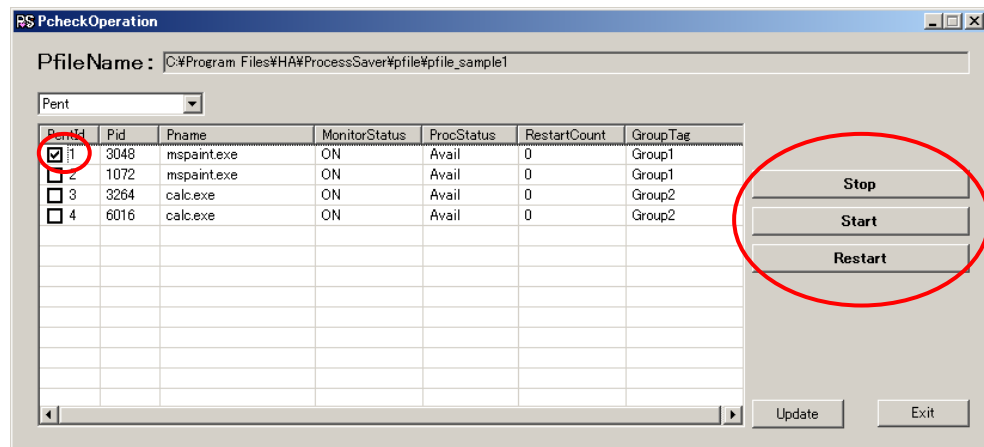


図 22 『PcheckOperation(pent)』

Group 単位で操作する場合

監視対象プロセス／サービスの GroupTag を指定して監視の停止・開始を行います。

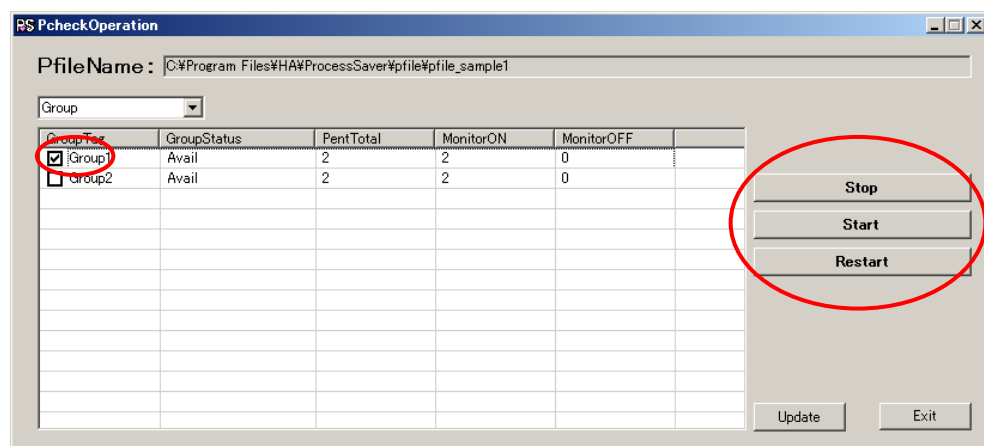


図 23 『PcheckOperation(Group)』

- ・ **PentTotal**
Group に登録されている 総 Pent 数を表示します。
- ・ **MonitorON**
Group に登録されている Pent のうち監視を行っている Pent 数を表示します。
- ・ **MonitorOFF**
Group に登録されている Pent のうち監視を行っていない Pent 数を表示します。

注意 GroupTag が設定されていない場合は、何も表示されません。

4. 自動起動設定について

『Create Pfile』で作成した Pfile の定義内容に基づいて、OS 起動時に PcheckRunList を確認し、PcheckRunList に記述のある Pfile の監視を自動的に開始する方法について説明します。
本設定を行わない場合、OS 起動時にプロセス／サービス監視は行われません。

PcheckRunList の作成方法について説明します。

4.1. Create PcheckRunList 画面に移動

[Create PcheckRunList] タブを選択してください。

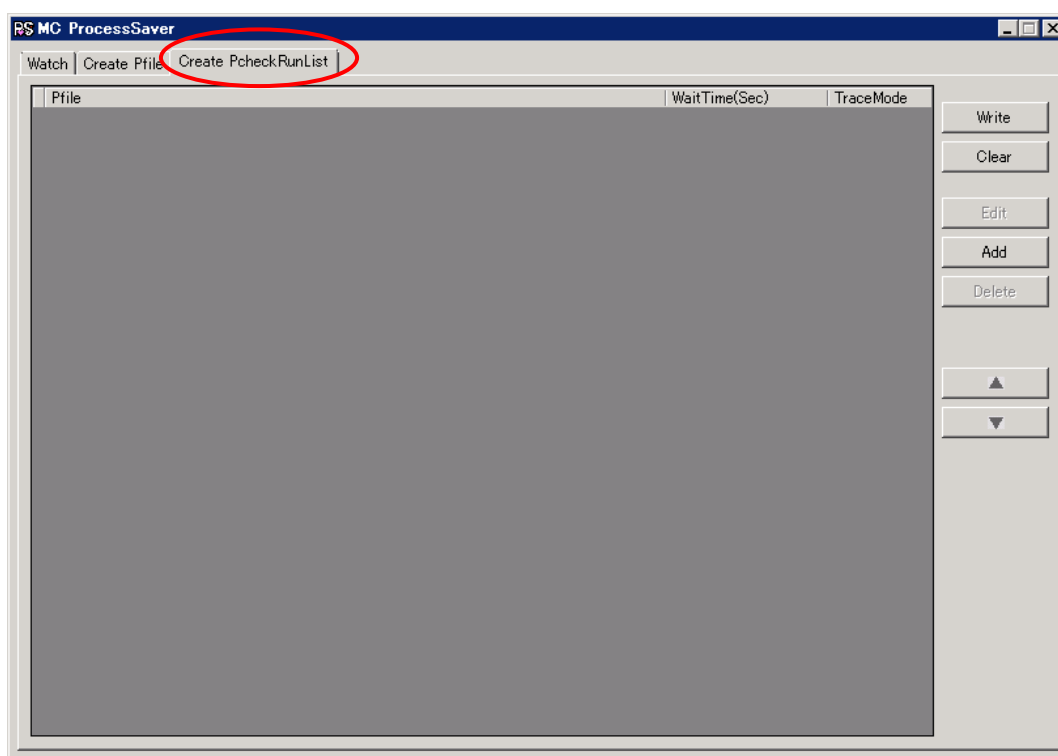


図 24 『Create PcheckRunList』

4.2. PcheckRunList の設定

Add を押して『SelectPfile』を表示してください。

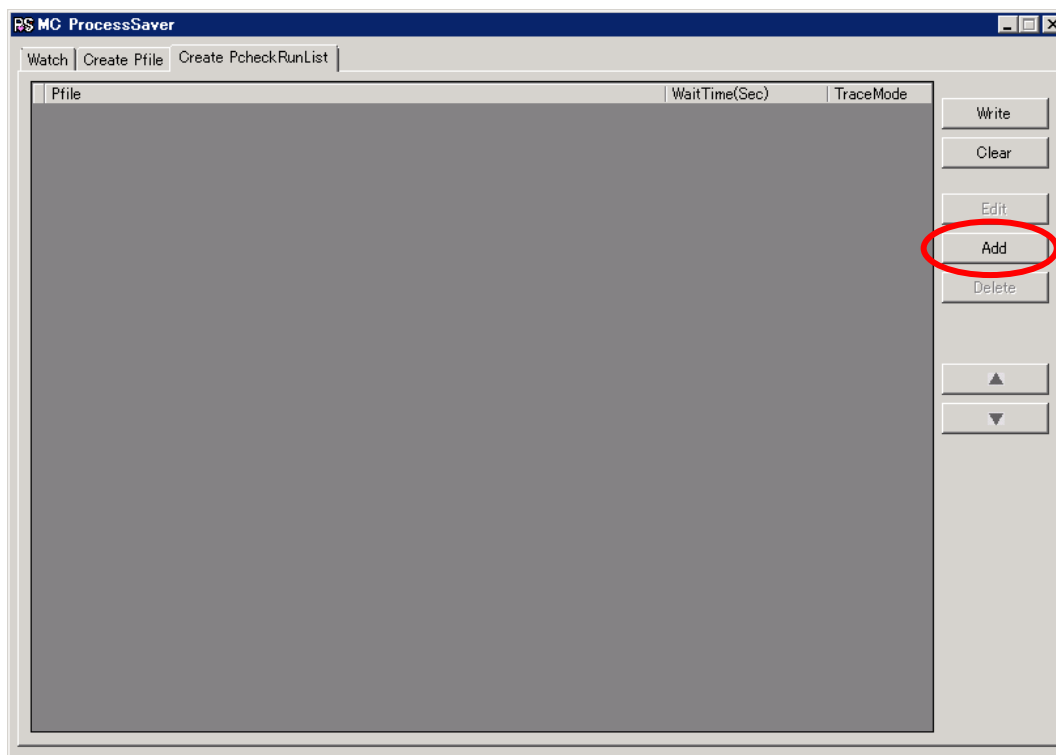


図 25 『Create PcheckRunList』

Add を押すと、下記画面が表示されます。

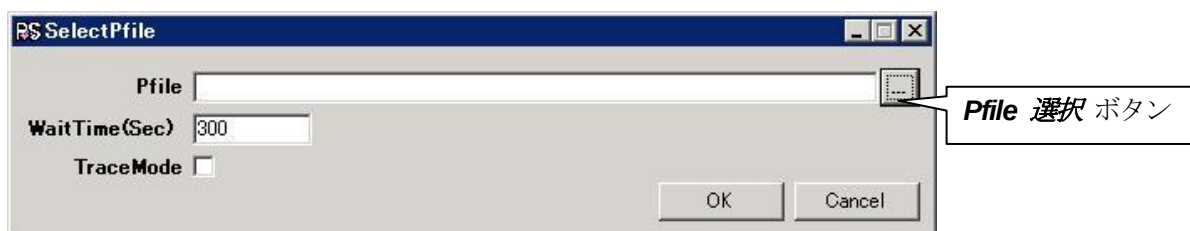


図 26 『SelectPfile』

各ボタンの説明

- ・ **OK** ボタン
入力した内容で PcheckRunList に追加します。
- ・ **Cancel** ボタン
『SelectPfile』を終了します。
- ・ **Pfile 選択** ボタン
ファイル参照画面が表示され、Pfile を選択することができます。

PcheckRunList に追加する Pfile を設定してください。

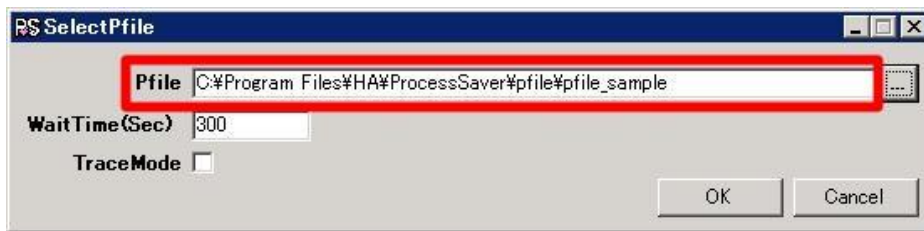


図 27 『SelectPfile』

直接 Pfile を入力するか、**Pfile 選択** を押して監視を開始する Pfile を選択してください。
また、WaitTime(sec)、TraceMode については、「3.2.3. Pcheck の起動方法」を参照してください。

4.3. 設定の保存

入力した内容を確認し、**Write** を押して設定を保存してください。

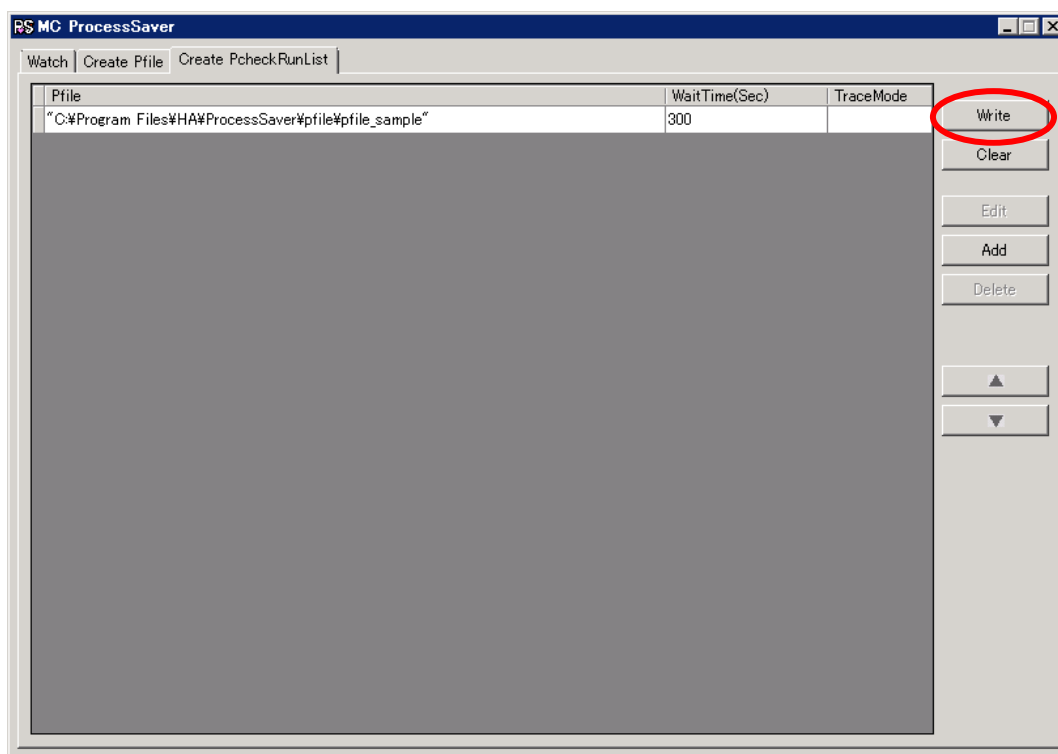


図 28 『Create PcheckRunList』

※ PcheckRunList ファイル

【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥config¥PcheckRunList

注意 別名 Pcheck の自動起動設定を行っている場合、『Create PcheckRunList』画面では PcheckRunList の編集はできません。
メモ帳などのエディタを使用し、直接ファイルを編集してください。

5. メッセージ一覧

※ メッセージ一覧 [説明(対処)] の () 内については、お客様ご自身にて対応して頂く内容を記述しております。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E001	Error	{xxx}にファイル名として使用できない文字が指定されています。	設定しているファイル名に禁則文字が含まれています。 (禁則文字を削除してファイル名を設定してください。)
PS04E003	Error	ClearCmd の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	ClearCmd にて設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (ClearCmd を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E004	Error	DumpFileName の最大文字数は 256 バイトです。({xxx})	DumpFileName に設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (DumpFileName を 256 バイト以下で設定してください。)
PS04E005	Error	Grace の設定範囲は、0～31536000 です。({xxx})	Grace の設定値が有効値ではありません。 (Grace を 0～31536000 の範囲内で設定してください。)
PS04E011	Error	GroupTag は数値のみで設定できません。({xxx})	GroupTag に設定している文字列が数値のみで設定されています。 (GroupTag を英字のみまたは英数字を組み合わせた文字列で設定してください。)
PS04E012	Error	IncludeStrings の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	IncludeStrings に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (IncludeStrings を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E013	Error	MinProcCount の設定範囲は、1～64 です。({xxx})	MinProcCount の設定値が有効値ではありません。 (MinProcCount を 1～64 の範囲内で設定してください。)
PS04E014	Error	MonitorInterval の設定範囲は、1～86400 秒です。({xxx})	MonitorInterval の設定値が有効値ではありません。 (MonitorInterval を 1～86400 の範囲内で設定してください。)
PS04E015	Error	MonitorInterval({xxx}) は MsgCheckInterval({xxx}) の正の整数倍の値を設定してください。	MonitorInterval の設定値が MsgCheckInterval の正の整数倍ではありません。 (MonitorInterval を MsgCheckInterval の正の整数倍で設定してください。)
PS04E016	Error	MsgCheckInterval の設定範囲は、1～3600 秒です。({xxx})	MsgCheckInterval の設定値が有効値ではありません。 (MsgCheckInterval を 1～3600 の範囲で設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E019	Error	DumpFileName を指定してください。	DumpFileName が設定されていません。 (DumpFileName を設定してください。)
PS04E020	Error	クリアコマンドが存在しません。 (xxx)	ClearCmd に設定した実行形式ファイルが存在しません。 (ClearCmd に指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E021	Error	再起動スクリプトが存在しません。 (xxx)	再起動スクリプトに設定した実行形式ファイルが存在しません。 (再起動スクリプトに指定した実行形式ファイルを作成するか、存在する実行形式ファイルを設定してください。)
PS04E028	Error	RetryOverAction を設定してください。 (xxx)	RetryOverAction が Continue, Exit, Shutdown 以外で設定されています。 (RetryOverAction を Continue, Exit, Shutdown にて設定してください。)
PS04E032	Error	RestartCmd の最大文字数は 1024 バイトです。 (xxx)	RestartCmd に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E033	Error	RestartTimeOut の設定範囲は、1～86400 秒です。 (xxx)	RestartTimeOut の設定値が有効値ではありません。 (RestartTimeOut を 1～86400 の範囲で設定してください。)
PS04E034	Error	RestartWaitTime の設定範囲は、1～86400 秒です。 (xxx)	RestartWaitTime の設定値が有効値ではありません。 (RestartWaitTime を 1～86400 の範囲で設定してください。)
PS04E035	Error	RetryCountMax の設定範囲は、0～1024 です。 (xxx)	RetryCountMax の設定値が有効値ではありません。 (RetryCountMax を 0～1024 の範囲で設定してください。)
PS04E036	Error	セパレータ不正で読み込めません。 (Line=xxx)	Pfile のフォーマットが違うため Pfile を読み込めません。 (Line=xxx) に表示している行を確認し正しいフォーマットにて設定してください。)
PS04E037	Error	PnameFullMatch を設定してください。 (xxx)	PnameFullMatch が設定されていません。 (PnameFullMatch を設定してください。)
PS04E038	Error	1 つ以上の Pent を追加してください。	Pent 部に個別情報部が追加されていません。 (1 つ以上の Pent を追加してください。)
PS04E039	Error	UpMessageReduceMode を設定してください。 (xxx)	UpMessageReduceMode が設定されていません。 (UpMessageReduceMode を設定してください。)
PS04E040	Error	IncludeStrings にセパレータ文字のみの設定はできません。	IncludeStrings にセパレータ文字のみが設定されています。 (コマンド引数を設定してください。)

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS04E041	Error	Pname の引数の最大文字数は 1024 バイトです。({xxx})	Process/ServiceName の引数に設定している文字列が 1024 バイトを超えて設定されています。 (Process/ServiceName の引数を 1024 バイト以下で設定してください。)
PS04E042	Error	{xxx}にファイル名を正しく指定してください。({xxx})	設定しているファイル名が正しく設定されていません。 ({xxx}に設定しているファイル名を確認し正しいファイル名を設定してください。)
PS05E001	Error	{xxx}にファイル名として使用できない文字が指定されています。	設定値のファイル名に禁則文字が含まれています。 (禁則文字を除いてファイル名を指定してください。)
PS05E002	Error	ClearCmd のファイル名の最大文字数は絶対パスで 256 バイトです。	ClearCmd にて設定している文字列のうちファイル名が 256 バイトを超えて設定されています。 (ClearCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E004	Error	ProcessSaverConsole はすでに起動しています。	ProcessSaver コンソールは、重複起動できません。
PS05E008	Error	DumpFileName の最大文字数は 256 バイトです。({xxx})	DumpFileName にて設定している文字列が 256 バイトを超えて設定されています。 (DumpFileName を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E010	Error	Pent 部でエラーまたは警告があります。	Pfile の Pent 部に問題があります。 (画面の内容にしたがって修正してください。)
PS05E011	Error	Pfile の作成に失敗しました。	指定したフォルダのあるドライブに空き容量がないなど、システムになんらかの問題があり Pfile を保存できません。 (システムを確認してください。)
PS05E014	Error	WaitTime を設定してください。	WaitTime が設定されていません。 (WaitTime を設定してください。)
PS05E017	Error	Pfile の読み込みに失敗しました。Pfile={xxx}	Pfile が破損しているなどの問題で Pfile を読み込めません。 (Pfile を確認してください。)
PS05E018	Error	MonitorInterval の設定範囲は、1～86400 秒です。	MonitorInterval の設定値が有効値ではありません。 (MonitorInterval を 1～86400 の範囲で設定してください。)
PS05E019	Error	MsgCheckInterval の設定範囲は、1～3600 秒です。	MsgCheckInterval の設定値が有効値ではありません。 (MsgCheckInterval を 1～3600 の範囲で設定してください。)
PS05E023	Error	Pfile が存在しません。	指定した Pfile が存在しません。
PS05E024	Error	Pfile を指定してください。	Pfile が指定されていません。
PS05E025	Error	Pcheck はすでに起動しています。	同じ Pfile を使用して Pcheck は、起動できません。

メッセージ ID	種類	メッセージ	説明(対処)
PS05E030	Error	PcheckRunList にすでに Pfile が存在します。	PcheckRunList は、Pfile を重複して登録することはできません。
PS05E036	Error	Pfile にエラーがあります。({xxx})	指定した Pfile に問題があります。 (Pfile を確認してください。)
PS05E037	Error	Pfile の最大文字数は 200 バイトです。({xxx})	Pfile の指定値が 200 バイトを超えて設定されています。 (Pfile を 200 バイト以下で指定してください。)
PS05E040	Error	RestartCmd のファイル名の最大文字数は絶対パスで 256 バイトです。	RestartCmd に設定している文字列のうちファイル名が 256 バイトを超えて設定されています。 (RestartCmd で指定しているファイル名を 256 バイト以下で設定してください。)
PS05E042	Error	HA ProcessSaver サービスの起動状態を確認してください。	HA ProcessSaver サービス が起動していません。 (HA ProcessSaver サービスを起動させ再実行してください。)
PS05E047	Error	WaitTime の設定範囲は、1～86400 秒です。	WaitTime の設定値が有効値ではありません。 (WaitTime を 1～86400 の範囲で設定してください。)
PS05E048	Error	Pfile が存在しません。Pfile の確認を行ってください。({xxx})	起動している Pcheck にて使用されている Pfile が存在しません。 (起動している Pcheck にて使用している Pfile の存在を確認してください。)
PS05E049	Error	Pcheck は実行されていません。 (Pfile: {xxx})	指定された Pfile を使用している Pcheck が起動していない状態で管理コマンドが発行されました。 (起動している Pcheck にて使用している Pfile を指定してください。)
PS05E050	Error	指定された PentID もしくは GroupTag が存在しません。(指定値: {xxx})	存在しない PentID もしくは GroupTag が指定されています。 (PentID もしくは GroupTag を確認してください。)
PS04W027	Warning	RestartCmd を設定してください。	RestartCmd が設定されていません。 (消滅監視のみを行う場合は、そのままでもかまいません。監視対象の再起動を行う場合は、RestartCmd を設定してください。)
PS05E051	Warning	ほかの Pcheck のオペレーション画面が、すでに表示されています。	PcheckOperation コンソールは、重複起動できません。 (起動している PcheckOperation 画面を終了してから起動してください。)
PS05I003	Information	コマンド受付状態です。(Pfile: {xxx})	すでにステータスの変更予約が行われています。 (ステータスの変更が行われてから再実行してください。)

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 1.2 for Windows
ユーザーズガイド(コンソール編)

2014 年 3 月 第 3 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111(代表)



© NEC Corporation 2014

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙